

精神科

I プログラムの名称

日野市立病院 精神・神経科初期臨床研修プログラム

II プログラムの管理・運営

日野市立病院臨床研修管理委員会

プライマリ・ケア医として精神（心）の問題に対応出来るようになることをミニマム・リクワイアメントとする。

研修医に対し臨床経験 4 年以上の上級医が各々つき、直接指導を行う。また 1 名の指導医がこれら研修医の指導担当に当たり、診療計画の推進にあたる。

III プログラムの指導者

統括責任者・研修担当医

桜ヶ丘記念病院（協力型臨床研修病院）

院長 岩下 覚（精神保健指定医）

IV 一般目標

精神症状を有する患者、ひいては医療機関を訪れる患者全般に対して、生物学的な面だけでなく、特に心理－社会的側面からも対応出来るために、基本的な診断及び治療ができ、必要な場合には適宜精神科への診察依頼が出来るような技術を習得する。具体的には、主要な精神疾患の診療を、指導医とともに経験する。

V 行動目標

精神および心理状態の把握の仕方および対人関係の持ち方について学ぶ。

- (1) 心(精神)と身体は一体であることを理解し、患者－医師関係を良好に保つ。
- (2) 基本的な面接法を学ぶ。
 - ・ 患者に対する接し方、態度、質問の仕方。
 - ・ 患者・家族への適切な指示・指導が出来る。
 - ・ 心理的問題の処理の仕方。
- (3) 精神症状の捉え方の基本を身につける。
 - ・ 担当症例について生物学的・心理学的・社会的側面を統合し、バランスよく把握し、治療出来る。
- (4) 患者家族に対し、適切なインフォームド・コンセントを得られるようにする。
- (5) チーム医療について学ぶ。

VI 経験目標

A 精神科診療の特性について学ぶ。

- (1) 精神疾患に関する基本的知識を身につけ、主な疾患の診断と治療計画を立てることができる。
- (2) 精神症状に対する初期的な対応と治療(プライマリ・ケア)の実際を学ぶ。
- (3) 向精神薬療法の基本を理解する。
- (4) 簡単な精神療法の技法を学ぶ。
- (5) 精神科救急に関する基本的な評価と対応を理解する。
- (6) 精神保健福祉法(精神科入院形態他)およびその他関連法規の知識を持ち、適切な行動制限について理解する。
- (7) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制について学ぶ。

B 経験すべき診察法・検査・手技

- (1) 基本的な診察法
 - ・精神面の診察が出来、記載できる。
- (2) 基本的な臨床検査
 - ・X線 CT 検査
 - ・神経生理学的検査(脳波・筋電図など)

C 経験すべき症状・病態・疾患

- (1) 頻度の高い症状
 - ・不眠・けいれん発作
 - ・不安・抑うつ
 - ・幻覚・妄想・精神運動興奮
- (2) 緊急を要する症状・病態
 - ・意識障害
 - ・精神科領域の救急
- (3) 経験が求められる疾患・病態
 - ・症状精神病
 - ・認知症(血管性認知症を含む)
 - ・アルコール依存症
 - ・うつ病
 - ・統合失調症
 - ・不安障害(パニック症候群)
 - ・身体表現性障害、ストレス関連障害

VII 研修スケジュール

- 1) 精神科研修の1ヶ月間を桜ヶ丘記念病院で行う。
 - 2週間 閉鎖病棟診察及び外来診察
 - 1週間 開放病棟診察及び外来診察

1 週間 デイケア、作業療法研修

- 2) クルズス：基礎的かつ必須である面接技法・薬物療法他について適宜講義を受ける。
- 3) 外来診察：初診の診療を行い，精神科診断，初期治療，また初診患者のその後の再診も経験し，治療経過についても学ぶ。
- 4) 閉鎖病棟診察：精神科病院の閉鎖病棟（含、認知症患者専門治療病棟）診療において急性期の精神障害者や慢性期の統合失調症者，認知症患者の診察を行い，入院形態等法的な問題、治療契約の結び方，入院面接の仕方等についても学ぶ，
- 5) 開放病棟診察：開放病棟（含、アルコール疾患専門治療病棟）において，アルコール依存症も含めた種々の精神疾患の診察を行う。
- 6) 精神科リハビリテーションの研修
 デイケアや作業療法についても学ぶ。

・閉鎖病棟（2 週間）

	9:00	13:00	14:00	30	15:00	30	16:00	30	17:00	30 18:00
月	9:00 外来診察	13:00 ニューケースカンファレンス	14:00 閉鎖病棟診察							
火	9:00 外来診察	13:00 閉鎖病棟診察								
水	9:00 外来診察	13:00 閉鎖病棟診察					16:30 診療会議			
木	9:00 外来診察	13:00 閉鎖病棟診察								
金	9:00 外来診察	13:00 閉鎖病棟診察			15:30 クルズス					
土	9:00 外来診察	13:00 閉鎖病棟診察								

・開放病棟（1 週間）

月	9:00 外来診察	13:00 ニューケースカンファレンス	14:00 開放病棟診察							
火	9:00 外来診察	13:00 開放病棟診察								
水	9:00 外来診察	13:00 開放病棟診察					16:30 診療会議			
木	9:00 外来診察	13:00 開放病棟診察								
金	9:00 外来診察	13:00 開放病棟診察			15:30 クルズス					
土	9:00 外来診察	13:00 開放病棟診察								

・デイケア・作業療法（1 週間）

月	9:00 デイケア研修	13:00 ニューケースカンファレンス	14:00 デイケア研修							
火	9:00 デイケア研修	13:00 デイケア研修								
水	9:00 デイケア研修	13:00 デイケア研修					16:30 診療会議			
木	9:00 作業療法研修	13:00 作業療法研修								
金	9:00 作業療法研修	13:00 作業療法研修			15:30 クルズス					
土	9:00 デイケア研修	13:00 デイケア研修								

Ⅷ 研修評価

指導医が 10 項目からなる研修評価を行う。この中にはサマリー提出率も含む。研修手帳の内容を照合し、しかるべき研修が行われたか吟味する。

研修医氏名		診療科名			
1	必要な知識を身につけたか？	A	B	C	D
2	面接技法を身につけたか？	A	B	C	D
3	患者の処置は的確に行われたか？	A	B	C	D
4	患者の問題点の認識能力とその解決能力	A	B	C	D
5	患者・家族への信頼度	A	B	C	D
6	医療従事者との人間関係は良好か？	A	B	C	D
7	カルテ・オーダーシートなど公文書の記載は的確か？	A	B	C	D
8	勤務態度，カンファレンスへの参加状況	A	B	C	D
9	患者サマリイの記載と提出状況	A	B	C	D
10	症例に関する研究意欲は？	A	B	C	D
総合評価					
研修担当指導医署名					

サマリー提出率は D(0-25%)，C(26-50%)，B(51-75%)，A(76-100%)とする。

総合評価は A=3，B=2，C=1，D=0 としてスコア化する。30 点満点。

研修医の直接のオーベンではなく，指導医 2 人以上による評価が望ましい。